

企画展

「アルテ・ポプラー」
——メキシコの造形表現のいま——

メキシコでは、職人や一般の人びとによる素朴でもしうい造形表現をアルテ・ポプラーと呼びます。先住民の仮面と毛糸絵、地域色豊かな陶器、都市の街路にあふれる骸骨人形や、生命の木といわれる焼き物のオブジェなど、現代のアルテ・ポプラーの姿を紹介いたします。

会期 12月24日(火)まで
会場 本館企画展示場



生命の木

■関連イベント
ギャラリートーク
日時 12月5日(木) 14時
場所 本館企画展示場
講師 鈴木紀本館教授
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

「朝枝利男の見たガラバコス」
——1930年代の博物学調査と展示——
アメリカの学芸員で写真家の朝枝利男が1930年代に撮影したガラバゴスの風景について、彼の描いた美しい魚の水彩画とともに紹介いたします。



ガラバコスでパイプをふかす朝枝利男

「あまねき旋律」しらべ」
インド北東部ナガランド州のチャケサン・ナガの人びとの歌を集めたドキュメンタリー映画。季節が移り変わる中、山々に広がる棚田で農作業をしながら、日々の生活や感情を歌に紡ぎながら生きていく人びとを追う映像をおして、人間にとって歌とは何かを考えます。



収穫を終えた金色の棚田と初穀を飛ばすチャケサン・ナガの女性
©the u-ra-mi-li project

日時 12月22日(日) 13時30分～16時
(開場13時)
会場 特別展示館
寺田吉孝本館教授
岡田恵美(琉球大学准教授)

※申込不要、要展示観覧券(定員350名)
※参加券を11時から特別展示館入口にて配布します。

「みんぱく村に神楽がやってくる!」
伊勢大神楽の実演とおはなし
歳末のお祓いに、伊勢大神楽がみんぱくへやってきます。実演とおはなしをおして伊勢大神楽の世界を体験しましょう。

日時 12月14日(土) 13時～15時30分
会場 特別展示館
講師 神野知恵(本館 機関研究員)
出演 伊勢大神楽講社 山本源太夫社中
※申込不要、参加無料、定員200名

「飛び出す獅子舞 福めりえ」
つくってかざって厄払い!
日時 1月11日(土)、12日(日)
10時～17時(受付終了16時30分)
会場 本館1階エントランスホール
対象 全年齢

※申込不要、参加無料、定員各日150名
「ハンティの文様の世界」
フェルトのコースターづくり
西シベリアに居住するハンティの人びとは、身の回りの動物や植物、精霊などをあらわした文様で衣服や生活小物を飾ります。ハンティの文様を学んで、フェルトのコースターづくりに挑戦しましょう。

日時 1月19日(日)
10時30分～12時、13時～14時30分
会場 本館2階第3セミナー室
講師 大石侑香(本館 特任助教)
対象 小学4年生以上
※要事前申込(先着順)、定員各回16名、参加費500円
※受付期間 12月4日(水)から(定員に達し次第受付終了)
※くわしくはみんぱくホームページをご覧ください。

「点字体験ワークショップ」
目で読む文字から手で読む文字へ、点字で異文化コミュニケーション! 点字体験ワークショップを開催します。

日時 12月14日(土) 12時～15時30分
会場 本館1階エントランスホール
※申込不要、参加無料
※みんぱくミュージアムパートナーズ(MMP)による催しです。

世界とつながる トーテムポールをカナダのアーティストと造ろう
クラウドファンディングはじめました

みんぱくは、まもなく創設50周年を迎えます。これを機に、現在のトーテムポールはそのままだ、次の時代のみんなくへの象徴として、もう一本のトーテムポールを制作したいと考えました。クラウドファンディングをおとした、みなさまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

期間 12月26日(水)23時まで
目標金額 300万円

●休館日のお知らせ
年末年始は12月28日(土)から1月4日(土)まで休館します。年始は1月5日(日)から開館します。

巡回展
「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」」
会期 12月22日(日)まで
会場 横浜ユースピア文化館
休館日 月曜日
主催 横浜ユースピア文化館
共催 片倉もとこ記念沙漢文化財団 国立民族学博物館 横浜市教育委員会

みんなくセミナー

日時 12月21日(土)13時30分～15時(開場13時)
会場 特別展示館
※申込不要、参加無料
第498回
海の人類史
——東南アジア・オセアニア考古学の最前線——
講師 小野林太郎
(本館 准教授)



トケラウ環礁での魚利用と再分配の風景

台湾から与那国島への航海実験がおこなわれるなど、海の人類史への注目は高まりつつあります。本講演では、東南アジアやオセアニアの島々を舞台に、私たち人類の海洋適応や渡海について、最新の考古学成果を交え、紹介いたします。

みんなくウィークエンド・サロン
研究者と話をしよう
本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」「調査している地域/国の最新情報」「みんなくでの展示資料」について分かりやすくお話しします。

12月1日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
みんなく展示場の中の宗教
話者 新免光比呂(本館 准教授)

12月8日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
「健常者」幻想をぶつ壊せ!
——琵琶法師、イタコの触角力——
話者 広瀬浩一郎(本館 准教授)

12月15日(日)14時30分～15時15分 本館ナビひろば
サンタクローズとなまはげ
——ヨーロッパの時間と季節の感覚——
話者 宇田川妙子(本館 教授)

※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
※各イベントについてくわしくは、みんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

刊利物紹介

■信田 敏宏ほか 編
『東南アジア文化事典』
丸善出版 20,000円(税別)

世界に類をみない多様性を有する東南アジア。その社会や文化の成り立ちから、人びとを魅了し続ける食文化や伝統芸能、どこか懐かしさを感じる生業や暮らし、さらには、近年、関心が高まっている観光や文化遺産、そして日本との交流などを、200名以上の研究者が最新の研究成果をもとに詳しく解説する。



■鈴木 七美 著

『エイジングフレンドリー・コミュニティ——超高齢社会における人生最終章の暮らし方』
新曜社 2,800円(税別)

人生の最終段階で心身面の支援が必要となったとき、誰とどこで暮らすのか。本書では、高齢者たちの希望と実践を、世界各国、日本国内で訪ね歩いた軌跡を綴った。そこには、変化の中で、多世代が人生の物語を紡ぎ、新たな異文化と出会う、いくつもの「居場所」のあり方が見いだされたのである。



■川瀬 慈 編著

『あふりこ——フィクションの重奏／遍在するアフリカ』
新曜社 2,400円(税別)

エチオピア、カメルーン、ベナン、カーボベルデ等、アフリカにおいてフィールドワークを行う人類学者5名による小説集。小説という語り口からたちあがる芸術・映像人類学の新たな境地。



友の会

友の会講演会

会場 本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)
※会員無料(会員証提示)、一般500円
第495回 12月7日(土)13時30分～14時40分
「みんなく名譽教授シリーズ」
聖なるもの 俗なるもの
講師 立川武蔵(本館 名譽教授)

第496回 2020年1月11日(土)13時30分～14時40分
中国に生きるムスリムたち
講師 奈良雅史(本館 准教授)

中国には約1000万人のムスリムが暮らしており、その約半数を回族とよばれる人びとが占めています。彼らはおもに唐代から元代にかけて中国にやってきた外来ムスリムとイスラームに改宗した漢人との通婚を通して形成された民族集団とされており、中国全土で漢人と隣り合いながら暮らしてきました。本講演では、回族の歴史と文化について紹介したうえで、宗教教育を事例に彼らが中国共産党政権下でいかにイスラーム信仰を続けているのかを考えます。

東京講演会

会場 モンベル御徒町店4Fサロン
(事前申込先着順・定員60名)
※会員無料(会員証提示)、一般5000円
第128回 2020年1月25日(土)13時30分～14時40分
消滅の危機に瀕した言語
講師 吉岡乾(本館 准教授)

二〇一九年は国際先住民言語年でしたが、日本ではほとんど話題になりませんでした。世界では数千もの言語が話されており、何億人も話すものも、数人しか話さないものもあります。近年、消滅の危機に瀕した言語について、意識が、少なくとも一定数の研究者間では高まっています。本講演では、実際に危機言語を調査している講師とともに、改めて危機言語というものを考えます。

